

◎保健就学事務の経費

保険事務

学務課

【総合計画上の位置づけ】

健やかで心豊かに暮らせるまち

学校教育:子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

【事業の目的】

対象 市立小・中学校の児童生徒等

意図 学校管理下における児童生徒等の不測のけがや疾病及び賠償責任に対して、必要な保障を行うため。

効果 災害共済給付制度及び保険加入により、不測の事故等災害に対して経済的負担を軽減し、安心して学校生活を送れるとともに、学校責任による賠償を円滑に行う。

【事業の内容】

(1) 保険事務

- ・学校管理下における児童生徒の負傷・疾病等に備え、各種保険金や掛金等の支出をした。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
11,459	11,459	11,074		385

主な支出内訳

・保険事務

学校災害賠償責任保険料

841

独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済掛金

10,078

学校事故見舞金

0

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	□サービス部門 教総-19 保険事務 ■支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1247 学校保険事務					
主管課	学務課	関連課	教育指導課				
分野名	学校教育						
目標 (目標値)	学校管理下における児童生徒の災害、事故等について、互助共済制度を活用することによって、円滑な学校教育の実施を図る。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日 ・児童生徒数は5月1 日学校基本調査人数		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
	10,744人	10,386人	10,191人				
運営資源 状 況	決算値	11,074千円	11,047千円	10,566千円			
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	11,074千円	11,047千円	10,566千円			
	人員配置数	0.4人	0.4人	0.4人			
	人件費	3,761千円	3,742千円	3,860千円			
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費	14,835千円	14,789千円	14,426千円			
	市民1人当 りの経費	84円	84円	82円			
	対象者1人 当りの経費	1,381円	1,424円	1,416円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)
学校事故見舞金の削減	◎	目標値	200,000円	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円
		実績値	327,075円	0円			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)
		目標値	100%	100%	100%	100%	100%
内部事務処理マニュアルの整理	○	実績値	50%	60%			
		年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(23年度)
担当内研修の実施	◎	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
		実績値	年1回	年1回			
指 標	評 価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名	全国(H19)	神奈川県(H19)	鎌倉市(H19)				
小学校発生件数	483,848件	29,255件	496件				
小学校発生率	6.8%	6.1%	6.6%				
中学校発生件数	420,895件	23,345件	475件				
中学校発生率	11.7%	10.4%	16.6%				

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済制度については、事務処理の効率化を図り、給付金請求事務を速やかに行うため、オンライン請求システム導入の必要な状況となっている。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 独立行政法人日本スポーツ振興センターの給付金を19年度から各学校へ直接給付する方法から、教育委員会で一括受入し、各学校へ振り分ける方法へ変更したが、平成20年度は、当該センターや会計課と調整を行い効率的な給付に努めた。 また、オンライン請求システムの導入に向けて、当該センターと協議及び研修を行い対応策の検討を図った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済制度についてのオンライン請求システムの導入が、今後の課題となっている。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 各学校でのオンライン請求システムを導入するには、教職員(養護教諭)へのパソコン導入などの環境整備が必要となる。ハード面での整備には時間が係る状況ではあるが、鎌倉市学校教育研究会保健部とも協議を行い導入が図れるよう検討していきたい。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	学校管理化における児童生徒の事故、災害が発生した場合の児童生徒の医療費救済制度や教育委員会の法定責任が求められた場合の保険等の制度は整備しておく必要がある。 また、災害共済制度の運用にあたっては、事務処理の効率化を図り、もって災害給付金の速やかな支給事務を進め、保護者の利便性の向上を図っていきたい。			
担当課長氏名:		学務課長 大澤 一則		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	学校管理下における事故、災害は、できるだけ未然に防ぐことが重要であるが、不幸にして発生してしまった事故、災害については、管理監督者責任の如何を問わず、保険制度の整備、充実を図っていく必要がある。			
担当部名	教育総務部	部長名	宮田 茂昭	